

令和 4 年度 事業報告書

社会福祉法人 可児市社会福祉協議会

目 次

① 法人運営事業拠点	
Ⅰ 法人運営事業	P Ⅰ
Ⅰ－Ⅰ 一般管理業務	P 3
Ⅰ－Ⅱ 福祉推進	P 5
Ⅰ－Ⅲ 地域支え愛ポイント制度	P Ⅰ0
Ⅱ 共同募金事業	P ⅠⅠ
② 受託事業等拠点	
Ⅰ 地域包括支援センター	P Ⅰ6
Ⅱ 障がい者生活支援事業	P Ⅰ7
Ⅱ－Ⅰ 障がい者生活支援センター「ハーモニー」	P Ⅰ7
Ⅱ－Ⅱ 障がい者基幹相談支援センター	P Ⅰ8
Ⅱ－Ⅲ 福祉リフトカー貸出受託事業	P Ⅰ9
Ⅲ 老人福祉センター福寿苑運営事業	P 20
Ⅳ 生活サポートセンター	P 2Ⅰ
Ⅳ－Ⅰ 生活困窮者自立支援事業	P 2Ⅰ
Ⅳ－Ⅱ 心配ごと相談事業	P 22
Ⅳ－Ⅲ 生活福祉資金貸付事業	P 22
Ⅳ－Ⅳ ず～っとあんき支援事業	P 22
③ 介護サービス事業拠点	
Ⅰ 居宅介護支援事業	P 24
Ⅱ 訪問介護事業	P 24
Ⅲ 計画相談支援事業	P 26
④ 障がいサービス事業拠点	
Ⅰ ふれあいの里可児就労継続B	P 27
Ⅱ ふれあいの里可児生活介護	P 28
Ⅱ－Ⅰ 支援班	P 28
Ⅱ－Ⅱ 生活班	P 29
関連事業	
Ⅰ 岐阜県共同募金会可児市支会の運営	P 3Ⅰ
Ⅱ 日本赤十字社岐阜県支部可児市地区の運営	P 3Ⅰ

➤ 法人運営事業拠点

1 法人運営事業

令和4年度決算の総括表

資金収支計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：円)

拠点区分	サービス区分	当年度収入額 A	当年度支出額 B	当年度資金 収支差額 C (A - B)
①法人運営事業拠点	○法人運営事業 ・一般管理業務・福祉推進・地域支え愛ポイント制度 ・生活支援コーディネーター事業・福祉基金事業等 ○共同募金事業	103,528,677	96,584,317	6,944,360
②受託事業等拠点	○地域包括支援センター ○障がい者生活支援事業 ・障がい者生活支援事業・福祉リフトカー貸出事業 ○老人福祉センター福寿苑運営事業 ○生活サポートセンター ・生活困窮者自立支援事業・心配ごと相談事業 ・生活福祉資金貸付事業・日常生活自立支援事業 ・法人後見事業・ず～っとあんき支援事業	127,566,740	118,373,511	9,193,229
③介護サービス事業 拠点	○居宅介護支援事業 ○訪問介護事業 ○計画相談支援事業	59,916,095	57,272,419	2,643,676
④障がいサービス事業 拠点	○ふれあいの里可児就労継続B ○ふれあいの里可児生活介護 ・支援班・生活班	95,036,596	87,706,703	7,329,893
内部取引消去		△18,556,923	△18,556,923	0
合 計		367,491,185	341,380,027	26,111,158

貸借対照表

（令和 5 年 3 月 31 日）

（単位：円）

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
預金	326,476,328	事業未払金	20,885,850
事業未収金	31,166,545	未払費用	12,558,292
預け金	337,414	職員預り金	531,147
前払金	50,000	賞与引当金	11,809,045
建物（基本財産）	67,104,000	退職給付引当金	79,034,387
基本財産特定預金	10,000,000	負債の部合計	124,818,721
機械及び装置	2		
車輛運搬具	3,141,271	純資産の部	
器具及び備品	3,879,043	基本金	10,000,000
リサイクル料金預託金	33,390	国庫補助金等特別積立金	55,201,464
ソフトウェア	1,383,745	福祉基金積立金	132,414,584
投資有価証券	10,000	災害時支援・対応基金積立金	88,788,722
退職給付引当資産	37,132,190	次期繰越活動増減差額	290,693,743
福祉基金積立資産	132,414,584	純資産の部合計	577,098,513
災害時支援・対応基金積立資産	88,788,722		
資産の部合計	701,917,234	負債及び純資産の部合計	701,917,234

1-1 一般管理業務

会費・寄付金（財源：会費）

（1）会費

可児市社会福祉協議会（以下「市社協」といいます。）では、だれもが安心して暮らせるまちづくりを進めるために、地域の方々の積極的な福祉活動への参加をお願いしています。

また、福祉活動を支える財源として、市社協の活動に賛同していただいた世帯や事業所などに会費の納入をお願いしています。賛同していただいた世帯を一般会員、法人・団体を特別会員と称しています。

区 分	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	会員数	実績額	会員数	実績額	会員数	実績額
一般会員 (500円)	20,307 世帯	10,149,595 円	20,697 世帯	10,343,232 円	21,376 世帯	10,687,840 円
法人会員 (10,000円)	134 法人	1,371,000 円	128 法人	1,366,000 円	135 法人	1,411,000 円
合 計		11,520,595 円		11,709,232 円		12,098,840 円

（2）寄付金

個人、自治会、諸団体、企業等から篤志として、次のとおり寄付金をいただきました。
外国籍市民への呼びかけも行いました。

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
一般寄付金	1,683,967 円	753,374 円	945,588 円
指定寄付金	2,847,000 円	244,000 円	43,000 円
合 計	4,530,967 円	997,374 円	988,588 円

理事会・評議員会（財源：会費）

効果的な事業運営や組織活動を展開するために、法令、定款等の定めにより、次のとおり理事会と評議員会を開催して、事業内容等を審議・決定しました。

（1）評議員会

第1回開催日：令和4年6月28日（定時評議員会）

議案：第1号 令和3年度事業報告について

第2号 令和3年度収支決算報告について

第2回開催日：令和4年12月19日

議案：第3号 令和4年度事業中間報告について

第4号 令和4年度第1次補正予算について

第5号 監事の辞任に伴う選任について

第3回開催日：令和5年3月22日（定時評議員会）

議案：第6号 令和4年度第2次補正予算について

第7号 令和5年度事業計画について

第8号 令和5年度予算について

第 9 号 理事の辞任による選任について

(2) 理事会

第 1 回開催日：令和 4 年 6 月 10 日

- 議案：第 1 号 令和 3 年度事業報告について
- 第 2 号 令和 3 年度収支決算報告について
- 第 3 号 評議員選任・解任委員の選任について
- 第 4 号 評議員の辞任に伴う補欠候補者の推薦について
- 第 5 号 定時評議員会の招集について
- 第 6 号 評議員選任・解任委員会の招集について

第 2 回開催日：令和 4 年 8 月 5 日

- 議案：第 7 号 被表彰者の選考について

第 3 回開催日：令和 4 年 12 月 1 日（書面同意によるみなし決議）

- 議案：第 8 号 委員の辞任に伴う評議員選任・解任委員の選任について
- 第 9 号 評議員会の招集について

第 4 回開催日：令和 4 年 12 月 8 日

- 議案：第 10 号 令和 4 年度事業中間報告について
- 第 11 号 令和 4 年度第 1 次補正予算について
- 第 12 号 評議員の辞任に伴う補欠候補者の推薦について
- 第 13 号 監事の辞任に伴う補欠候補者の推薦について
- 第 14 号 苦情解決に関する第三者委員の辞任に伴う委員の選任について
- 第 15 号 評議員選任・解任委員会の招集について

第 5 回開催日：令和 5 年 3 月 14 日

- 議案：第 16 号 令和 4 年度第 2 次補正予算について
- 第 17 号 令和 5 年度事業計画について
- 第 18 号 令和 5 年度予算について
- 第 19 号 理事の辞任による補欠候補者の推薦について
- 第 20 号 任期満了による苦情解決に関する第三者委員の選任について
- 第 21 号 契約の執行について
- 第 22 号 評議員会の招集について

第 6 回開催日：令和 5 年 3 月 31 日（書面同意によるみなし決議）

- 議案：第 23 号 社会福祉法人可児市社会福祉協議会常務理事の選定について

評議員選任・解任委員会（財源：会費）

法令、定款等の定めにより、次のとおり評議員選任・解任委員会を開催して、評議員を選任しました。

第 1 回開催日：令和 4 年 6 月 15 日

- 議案：第 1 号 評議員の選任について

第 2 回開催日：令和 4 年 12 月 14 日

- 議案：第 2 号 評議員の選任について

1-2 福祉推進

かに社協だより「こころん」の発行（財源：会費）

社協だより「こころん」を隔月で発行し、市社協のさまざまな取り組みを紹介しました。

なお、視覚障がい者のために、同紙の音訳を「音訳・ヴォイスの会」に委託し、音声版を作成してホームページに掲載しています。

発行回数：年6回（偶数月の1日に発行）

「こころん」の着ぐるみによる啓発活動（財源：会費）

社協活動を市民に広くPRし親しんでいただくことを目的として、市社協のマスコットキャラクター「こころん」の着ぐるみを活用した啓発活動を、社協関連のイベント等で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となっていることや、感染防止の観点から、活用の機会がありませんでした。

可児市社会福祉大会・社協セミナー（財源：会費）

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、可児市社会福祉大会と社協セミナーは中止しました。可児市の福祉に貢献された方、共同募金に多額の浄財を寄付していただいた方、日本赤十字社岐阜県支部可児市地区表彰を行い、訪問等により表彰状等をお渡ししました。

表彰等の件数

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
市社協会長表彰・感謝	47 件	46 件	58 件
岐阜県共同募金会可児市支会長表彰・感謝	120 件	121 件	128 件
日本赤十字社岐阜県支部可児市地区表彰	17 件	14 件	15 件
合 計	184 件	181 件	201 件

件数：個人及び団体数

ホームページ及びFacebook・Instagramの運用等（財源：会費）

ホームページと、SNSのFacebookやInstagramにより、市社協事業をはじめ、地区社協行事や地域のボランティア活動等の周知に努めました。また、ボランティア募集などのボランティア中心とした情報を発信するためにLINEを活用しました。

ボランティア活動の支援（財源：会費）

（1）ボランティア活動者（個人・団体）への支援

ボランティア活動を始めたい人、ボランティアを必要とする人や、福祉施設・団体等からの相談を受け、ボランティア情報の提供や調整をしました。その中で必要に応じて、ボランティア保険の加入受付、備品の貸し出しを行いました。

また、福祉センター内の掲示板やホームページ内のコーナーでボランティア情報を掲示するほか、可児市社協ボランティアセンターとしてLINE公式アカウント、SNSのFacebookやInstagramでもボランティア活動に関する情報の発信を行いました。

ボランティア登録数

区 分		令和4年度	令和3年度	令和2年度
新規登録	個 人	48 人	25 人	13 人
	団体（人数）	12 団体 (147 人)	7 団体 (42 人)	2 団体 (6 人)
年度末 登録数	個 人	120 人	75 人	128 人
	団体（人数）	116 団体 (2,561 人)	118 団体 (2,634 人)	113 団体 (2,773 人)

(2) ボランティアコーディネート

個人、地域、学校等からのボランティアの依頼に対し、活動できる個人、団体をコーディネートしました。

ボランティアコーディネート件数

区 分		令和4年度	令和3年度	令和2年度
依頼元	個 人	4 件	13 件	0 件
	団 体	42 件	14 件	12 件
コーディネート件数		43 件	23 件	12 件

(3) ボランティア連絡協議会の支援

市内のボランティア団体が交流のうえ、情報交換を行いながら課題を共有し、その解決を図るとともに、会員の資質向上と地域福祉の推進を目的とするボランティア連絡協議会の活動を支援しました。

(4) 「音訳ボランティア講座」の開催

視覚障がい者へ音声で日常生活に必要な情報を届ける音訳ボランティアを養成するための講座を開催しました。

開 催 日：令和4年9月20日～11月8日 全8回

場 所：可児市福祉センター

参加者数：11人

(5) 切手の整理体験会の開催

整理や仕分けをした使用済み切手を売却して、福祉に還元する切手の整理ボランティア活動の体験会を開催し、新たなボランティアの養成をしました。

開 催 日：令和5年2月27日・3月27日

場 所：可児市福祉センター

参加者人数：延べ32人

福祉教育の推進（財源：会費）

(1) 福祉に関する学習への支援

市内小・中学校等からの依頼に応じ、「車いす」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」等福祉体験の実施や講師の紹介、福祉体験用具の貸出しなどを行うことにより、福祉に関する理解の普及を図るとともに、福祉教育の推進に取り組みました。推進にあたり「福祉教育ガイドブック」を新たに作成しました。

実施件数

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
福祉講座	27 件	12 件	6 件
福祉体験用具貸出し	10 件	10 件	9 件

(2) 福祉ドキドキ・わくわく体験

さまざまな立場の人との出会いを通して、福祉に対する理解を深め、子ども達の温かい心を育むことを目的として、市内の小学4～6年生を対象に福祉ドキドキ・わくわく体験を開催しました。今年度は、オンラインでも参加できるような内容も含めて4つの講座を企画しました。今年度は、高校生（延べ17名）に運営のボランティアとして協力していただきました。参加者は延べ179名でした。

日にち	内 容	開催方法（場所）	参加者数
7月29日	「災害救助犬ってどんな犬？」	中恵土地区センター	65名
7月31日	「認知症キッズサポーターになろう！」	福祉センター	41名
8月3日	「チャレンジ★ゴールボール」	春里地区センター	46名
8月7日	「被災写真洗浄ボランティア体験」	福祉センター	27名

地区社協活動の支援

(1) 地区社協への助成（財源：社協会費、共同募金配分金、日赤会費配分金）

各地区社協に活動のための助成金を交付しました。各地区社協では、助成金を財源の一部として、さまざまな活動を行いました。

令和4年度助成実績額

（単位：円）

地区社協名	社協福祉推進事業			共同募金事業		社協計 ①	日赤会費 配分金額 ②	合 計 ①+②
	均等割	一般会費	特別会費	均等割	実績割			
今 渡	80,000	123,000	21,000	100,000	74,000	398,000	43,000	441,000
川 合	80,000	88,000	33,000	100,000	52,000	353,000	30,000	383,000
下恵土	80,000	175,000	34,000	100,000	81,000	470,000	62,000	532,000
土 田	80,000	134,000	48,000	100,000	85,000	447,000	47,000	494,000
帷 子	80,000	505,000	15,000	100,000	422,000	1,122,000	177,000	1,299,000
春 里	80,000	124,000	21,000	100,000	91,000	416,000	42,000	458,000
姫 治	80,000	94,000	42,000	100,000	57,000	373,000	33,000	406,000
平 牧	80,000	266,000	36,000	100,000	135,000	617,000	80,000	697,000
桜ヶ丘ハイツ	80,000	188,000	6,000	100,000	102,000	476,000	65,000	541,000
久々利	80,000	44,000	6,000	100,000	27,000	257,000	15,000	272,000
広見東	80,000	58,000	18,000	100,000	35,000	291,000	20,000	311,000
広 見	80,000	165,000	78,000	100,000	98,000	521,000	57,000	578,000
中恵土	80,000	61,000	15,000	100,000	44,000	300,000	21,000	321,000
兼 山	80,000	39,000	3,000	100,000	25,000	247,000	14,000	261,000
計	1,120,000	2,064,000	376,000	1,400,000	1,328,000	6,288,000	706,000	6,994,000

※均等割額として一律の金額を算定し、その後各地区社協での前年度実績額に応じて助成金を算定し、交付しています。算定内訳は次のとおりです。

市 社 協 より：均等割額 80,000 円 一般会費実績額の 20% 特別会費実績額の 30%

共同募金より：均等割額 100,000 円 赤い羽根募金実績額の 10%

日 赤 よ り：会費実績額の 7%

各地区社協では、次のような事業が行われました。

地区社協	令和4年度に実施された主な事業
今 渡	ふれあいコンサート、ご長寿をお祝いする会、友愛訪問事業、子育てサロン「いまっこ」
川 合	団体活動への助成、子ども会への補助、友愛訪問事業、新春劇場、かわいおしゃべりカフェ、子育てサロン「スマイリー」
下恵土	地域福祉サービスメニュー事業
土 田	地域サロンへの助成、みんなでラジオ体操！、子ども講座（どた de なぞとき大作戦）、身障協会との交流会、子育て応援事業（人形劇団むすび座公演）、秋・春の給食サービス、地区社協だより発行
帷 子	高齢者送迎サービス事業、高齢者安全運転講習会、認知症サポーター養成講座、地域福祉サービスメニュー事業、ドライブインシアター、子ども講座（親子防災教室）、支え合い活動ニーズ調査、高齢者講座、送迎ボランティア意見交換会、地区社協だより発行
春 里	高齢者給食サービス事業、各種団体への活動助成
姫 治	長寿の祝い（記念品配布）、姫治コミュニティ農園「ひめほっこり」
平 牧	平牧地区支え合い活動（生活支援サービス）、長寿のお祝い記念品配布、サロン・平牧（出張サロン）、さばたん農園、ひまわりプロジェクト、シニアスマホ講座
桜ヶ丘 ハイツ	「みんなの家」の運営、みんなの家阜、家事支援「この指と～まれ」、移動支援、買物配達支援、ハイツカフェ、地域見守り散歩、高齢者見守り安心コール、夏休み寺子屋、喜寿のお祝い配布、バザー、鏡餅配付、節分祭、広報紙発行
久々利	友愛訪問事業、クリスマス会、泳サロン「さくらいそう」、ごみ出し支援事業
広見東	長寿の祝い事業、携帯用名札配付、おしゃべりサロン東縁
広 見	ほっとサロンゆい、出張サロン、ボランティア運転講習会、友愛訪問事業、サロン代表者会議、サロン交流会、おとしごろたいむ、サロン年末見舞、コミュニティバス活用講座、初めてのスマホ教室、広報誌「ゆい通信」の発行
中恵土	ふれあい農園事業、長寿の祝い、クリスマス花火大会、まちかど運動教室協力
兼 山	高齢者昼食サービス、兼山地区サロンスタッフ会議、野外シアター（共催事業）

(2) 地区社協活動の支援（財源：会費）

地域福祉活動を効果的に推進するため、フォーラムへの参加や地区社協の現状や運営について代表者による情報交換を行いました。

○県社協主催「福祉のまちづくりフォーラム 2022」への参加

開催日：令和4年11月22日

場所：ZOOMによる開催（可児市福祉センターにて）

参加者数：22人

目的：コロナ禍における地域での支え合い活動のあり方を考える

○地区社協代表者会議

令和4年7月21日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期としました。その後も開催について検討しましたが、感染状況を考慮して、次年度に持ち越すこととなりました。

(3) 地域福祉懇話会の開催支援（財源：会費）

新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての地区での開催はできませんでしたが、一部の地区においては少人数での開催や、地区内の自治会単位で開催をされました。

実施地区：9地区

(4) 生活支援コーディネーター業務の受託（財源：市受託金 17,935,500円）

令和4年度から第2層生活支援コーディネーター業務に加えて第1層生活支援コーディネーター業務も市から受託し、第1層と第2層の業務を一体的に進めました。また、地域包括ケアシステムの構築を目指し、市と定期的に打合せを行うとともに「あんしんづくりサポート委員会」（第1層協議体）に出席しました。

市と第1層及び第2層生活支援コーディネーターの打合せ：11回

あんしんづくりサポート委員会への出席回数：14回

福祉用具による生活支援（財源：会費）

(1) 福祉用具の貸出

在宅で障がいのある人に対し日常生活の便宜を図るため、福祉用具を無償で貸与しました。

貸出し用具：車いす、ポータブルトイレ、シャワースイス、歩行杖、歩行器等

(2) YYネット（福祉用具のリサイクル）

福祉用具を譲ってほしい人と譲りたい人の情報を仲介し、福祉用具の有効活用を図りました。

利用実績

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
(1)福祉用具の貸出	387件	346件	354件
(2)YYネット	36件	18件	16件

緊急法外援護（財源：会費）

緊急に援護する必要がある行旅病人等に対し、市を通じて一時的な援護を行いました。

援護状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
給付件数	13 件	10 件	18 件
給付金額	25,737 円	32,500 円	118,280 円

短期特別貸付（財源：会費）

他からの資金の融資を受けることが困難な低所得世帯の災害、疾病、その他緊急の場合に、その世帯の経済的自立を図るため、10万円を限度として短期的に資金を貸し付ける特別貸付制度です。

貸付状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
貸付件数	0 件	0 件	0 件
貸付金額	0 円	0 円	0 円

学習支援教室の実施（財源：会費）

ひとり親家庭等の準要保護世帯の小中学生を対象に、ボランティアに協力をいただきながら、学びをサポートするための学習支援教室を実施しました。

開催日：第2、第4月曜日 17時～19時

開催日数：24回 参加者：延べ171人

福祉施設災害準備支援事業の実施

お互いの施設を可能な範囲で一時的な避難の利用や、それに付随する設備や備品を利用することでの利用者の安全確保を目的とした「災害時における一時避難等の相互利用に関する協定」を新たに6施設と締結し、可見市や御嵩町の78施設となりました。

また、運営する法人や事業所が、災害時に備えを進めることができるように、可見市防災の会にご協力いただき災害時の携帯トイレの講座を令和4年10月6日に企画し、9施設11名の方にご参加いただきました。

1-3 地域支え愛ポイント制度（財源：市受託金2,488,200円）

市民が、ボランティア活動を通して地域貢献と子育ての安心づくりや高齢者の安気づくりを目指す事を目的として、可見市が平成26年度から開始した地域支え愛ポイント（Kマネー）制度のうち、ボランティア付与団体及びボランティア活動者の登録、ポイントからKマネーへの交換業務を担いました。

それにより、制度の普及啓発と併せ、ボランティア活動の拡充を図りました。

登録者数

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ポイント付与団体	216 団体	209 団体	215 団体
ボランティア登録（個人）	2,609 人	2,407 人	2,354 人
内ポイント交換者数	599 人	601 人	1,069 人
Kマネー交換金額	2,259 千円	1,981 千円	4,053 千円

2 共同募金事業（財源：共同募金配分金 11,520,811 円）

災害ボランティア

（１）災害ボランティアセンター

令和３年度に可児ライオンズクラブと締結した「自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定」の具体的な支援として一輪車 10 台をご寄付いただきました。

○災害ボランティアセンター設置・運営訓練

開催日：令和４年６月 25 日

場 所：可児市福祉センター ホール

参加人数：52 人（見学 4 人）

参加団体：可児市災害ボランティアサポート、可児ライオンズクラブ、可児市 NPO 協会、可児市国際交流協会、可児市防災の会、可児市ボランティア連絡協議会、可茂圏域社協、可児市高齢福祉課、可児市社協

○災害ボランティア団体

団 体 名：可児市災害ボランティアサポート

会 員 数：会員 30 人、準会員 12 名、協力会員 5 名

活動内容：役員会（11 回）、定例会（9 回）を開催

主な活動：４月 28 日 年次総会

８月 ７日 福祉ドキドキわくわく体験の講師及び協力

11 月 26 日 勉強会(福井県勝山市との意見交換会)

３月 18 日 災害ボランティア講座の受講

その他、年間を通して、県社協及び市社協災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルに関する学習などを定例会で実施

被災写真洗浄作業（ボランティア）を 12 回程度実施

（２）「災害ボランティア講座」の開催

地震や豪雨などの自然災害発生時に、災害ボランティア活動を円滑に進められる体制を構築することを目的に「可児市災害ボランティア講座」を午前の「入門編」と、午後の「経験者向け」の二部構成で開催しました。新型コロナウイルス感染症の状況下における災害ボランティアセンターの設置の実例等をもとに講演いただき、災害ボランティアセンターに関わる課題について学びました。

開催日：令和５年３月 18 日

【入 門 編】：災害ボランティア活動について

【経験者向け】：昨今の災害ボランティアセンターの活動と運営について

【講 師】認定 NPO 法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田 暢之 氏

【参 加 者】：入門編 19 人、経験者向け 27 人

(3) 可児市災害ボランティアセンター備品倉庫の整備

災害ボランティアセンターで必要な備品を適切に管理するために、福祉センター東側駐車場に物置を設置しました。

(4) 令和4年度 岐阜県災害ボランティア連絡調整会議設置訓練への参加

災害ボランティアの受け入れ調整を行う「岐阜県災害ボランティアボランティア連絡調整会議」の設置・運営の訓練が開催され、被災地設定が可児市のため参加しました。

開催日：令和4年9月4日

※県総合防災訓練に合わせて実施（連携訓練：可児市）

場所：オンライン開催（ZOOM）

主催：岐阜県健康福祉部地域福祉課

福祉協力校・園の指定

福祉に関する学習や体験・交流などを通して社会福祉への理解と関心を深め、社会奉仕や社会連帯の精神を育む教育の実践を目的として、福祉協力校・園を指定しています。

（指定校・園数：保育園・幼稚園18園 小学校12校 中学校6校 高等学校3校）

福祉協力校・園の福祉に関する学習に対し、継続して助成を行うとともに、企画支援を行いました。

助成件数：29件 助成額：1,016,670円

住民福祉活動の支援

(1) ふれあい・いきいきサロンの普及支援

住民主体による地域の集いの場であるふれあい・いきいきサロンに対し、ノウハウの提供を行い、助成等の支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染対策グッズを希望に応じ、配付しました。また、サロン活動を行うスタッフを対象に、研修会を開催しました。

ふれあい・いきいきサロン 登録件数：116件

（高齢者サロン、子育てサロン、子ども食堂、学習支援サロンの合計件数）

新たに登録されたサロン件数：11件

ふれあい・いきいきサロン普及助成（感染対策グッズ配付を含む）

助成件数：72件 助成額：676,066円

実施したサロン研修会

開催日	内 容	参加人数
5月25日	ココロとカラダの健康ひろば（レクリエーション指導）	25名
7月7日	子ども食堂交流会	18名
12月16～20日	ふれあい・いきいきサロン情報交換会（3回開催）	54名
3月1日	小物づくり講座	23名

○高齢者・多世代サロンの普及支援

高齢者やいろいろな世代が気軽に集える場づくりを通じて、閉じこもり予防や見守りを目的としたサロンに支援を行いました。

サロン登録件数のうち高齢者・多世代サロン：88件

新たに登録された高齢者・多世代サロン：6 件

- ・オヤノバ・ミナノバ（今渡）
- ・にじいろサロン（下恵土）
- ・もみじ会（広見東）
- ・東彩会（下恵土）
- ・おしゃべりルーム花みずき（今渡）
- ・渡り魅力発信基地 KOBODO（土田）

○子育てサロンの普及支援

子育て中の親同士が気軽に集い、仲間づくりと情報交換の場を提供することを目的としたサロンに支援を行いました。

サロン登録件数のうち子育てサロン：14 件

○子ども食堂の普及支援

子どもだけで食事をしている家庭、簡単な食事で済ませてしまっている子へ、みんなで食べる楽しさとバランスの良い食事を提供することを目的としたサロン（子ども食堂）に支援を行いました。

サロン登録件数のうち子ども食堂：10 件

新たに登録された子ども食堂：5 件

- ・地域たすけあいの会（中恵土）
- ・やさしい魔法使い（春里）
- ・キッズ♡レストラン（平牧）
- ・広眺ヶ丘子供食堂「はなかご」（広見）
- ・シシ丸王国おや子食堂～ハッピーレストランどんぶり～（春里）

○学習支援サロンの普及支援

学習の習慣や高校等への進学に向けた学習支援を行うことを目的としたサロンに支援を行いました。

サロン登録件数のうち学習支援サロン：4 件

（2）福祉のまちづくりへの助成

赤い羽根まちづくり活動助成事業として、自治会やボランティア団体が主となって行う地域福祉推進活動に対し助成を行いました。

赤い羽根まちづくり活動助成 助成件数：24 件 助成額：373,055 円

（3）見守り活動への助成

新型コロナウイルス感染症の状況下でサロンが開催できなくなり、自粛で高齢者等の閉じこもりがちな状況を受けて、サロンのボランティアがサロンの参加者を見守り訪問する活動に対し、赤い羽根まちづくり活動助成事業 見守り活動助成金として、助成を行いました。

見守り活動助成金 助成件数：5 件 助成額：40,400 円

(4) 福祉団体への活動助成

助成件数：7件 助成額：1,330,000円

＜助成先＞	可児市民生児童委員連絡協議会活動事業	270,000円
	可児市民生児童委員連絡協議会子育てサロン運営事業	330,000円
	可児市ボランティア連絡協議会	450,000円
	岐阜県身体障害者福祉協会可児支部	70,000円
	可児市健友連合会	70,000円
	可児市保育協会	70,000円
	可児市母子寡婦福祉連合会	70,000円

(5) 地区社協日常支援活動推進事業助成

地域における支え合いシステム構築のため、地区社会福祉協議会が地域に根ざした継続的事業を実施するための支援として、赤い羽根共同募金配分金による助成を行いました。

助成件数：3件 助成額：998,000円

＜助成先＞

- ・帷子地区社会福祉協議会：帷子地区高齢者送迎サービス事業
- ・平牧地区社会福祉協議会：平牧地区支え合い活動
- ・桜ヶ丘地区社会福祉協議会：地区社協みんなの家運営事業

歳末たすけあい事業

民生児童委員の協力を得て、下記の世帯へ「友愛訪問」を行い、準要保護世帯には歳末見舞金（地域通貨Kマネー）、75歳以上のひとり暮らし世帯には歳末見舞品を配付しました。

対象件数等

区 分	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
準要保護世帯	398件	1,210,145円	409件	1,466,905円	401件	1,203,000円
75歳以上のひとり暮らし世帯	1,223件	672,650円	1,175件	1,233,615円	1,133件	566,500円
合 計	1,621件	1,882,795円	1,584件	2,700,520円	1,534件	1,769,500円

生活物品等緊急給付事業

(1) 緊急食料等給付

緊急に食料の援護を必要とする人に、3日分程度の食料（米、レトルト食品、缶詰等）を給付しました。

給付状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ給付件数	26件	16件	38件
金 額	0円	0円	0円

※寄付物品及び市社協で購入した食料を給付しているため、金額は市社協負担額を記載しています。

(2) フードバンクとの提携による食料支援

岐阜県社会福祉協議会と特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋との業務提携をもとに食料支援をしました。

支援状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ支援件数	50 件	54 件	81 件
配 送 料	125,000 円	135,000 円	202,500 円

※1 件あたり2～3週間分の食料（配送料は市社協が負担しています。）

＊特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋は、食材メーカーや生協と連携し、企業から廃棄されそうになる食品を生かし、生活困窮者支援に取り組んでいる団体です。

➤ 受託事業等拠点

1 地域包括支援センター（財源：市受託金・介護保険収入等 40,929,984 円）

可見市北部地域包括支援センター

地域住民（主として高齢者）の心身の健康維持や生活の安定、保健・医療の向上、虐待の防止など、さまざまな課題に対して総合的なマネジメントを担い、解決に向けた取り組みを行いました。

（１）対象地域

北部地域（今渡、川合、下恵土、兼山）

（２）対応件数

区 分	令和４年度	令和３年度	令和２年度
総合相談	2,414 件	1,877 件	1,637 件
ケアマネジャー支援	159 件	264 件	291 件
高齢者虐待相談	103 件	56 件	54 件
プラン作成	2,304 件	2,128 件	2,083 件

（３）連携事業等の実施

市内６地域の包括支援センター間の連携・協力を行うため、各種事業を実施しました。

・ケアネット可見への参画	開催回数： 11 回
・地域包括支援センターだよりの発行	発行回数： 12 回
・運営推進会議への参加	開催回数： 28 回
・認知症サポーター養成講座	開催回数： 1 回
・講話（老人会等）	開催回数： 2 回
・地域ケア個別会議	検討件数： 2 回
・もの忘れ困りごと相談	開催回数： 10 回
・認知症カフェ	開催回数： 5 回
・アルツハイマー週間パネル展示	開催回数： 1 回
・認知症知っ得講座	共催回数： 1 回

2 障がい者生活支援事業

2-1 障がい者生活支援センター「ハーモニー」

(財源：市受託金 23,826,516 円 障がい者基幹相談支援センター分含む)

障がい者の自立と社会参加促進のため、相談支援、生活支援などを行いました。

来所者数

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ来所者数	3,403 人	5,715 人	1,956 人

(1) 障がい（身体・知的・精神等）に関する相談支援

相談内容

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
職員との相談	8,559 件	6,606 件	6,764 件
ピアカウンセリング	604 件	777 件	610 件
合 計	9,163 件	7,383 件	7,374 件

※ピアカウンセリング：障がい者や障がい者の家族が相談員として、相談に応じます。

相談内容の内訳

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
福祉サービスの利用等	6,095 件	4,485 件	3,034 件
障がいや病状	54 件	84 件	246 件
健康・医療	528 件	433 件	435 件
傾聴（不安解消・情緒不安）	915 件	1,363 件	1,499 件
保育・教育	8 件	45 件	68 件
人間関係・家族関係	69 件	97 件	277 件
家計・経済	69 件	83 件	96 件
生活技術	77 件	83 件	36 件
就労	745 件	399 件	686 件
社会参加・余暇活動	164 件	145 件	234 件
権利擁護	19 件	52 件	32 件
連絡調整	221 件	69 件	340 件
その他	199 件	45 件	53 件
合 計	9,163 件	7,383 件	7,036 件

(2) 障がい支援区分の認定調査

障がい支援区分の認定のため、サービスの利用申請者への面談調査、認定関係書類を作成しました。

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
調査件数	37 件	26 件	26 件

(3) 教室の開催

障がい者の社会参加を促進するため、スポーツ・レクリエーション教室、芸術・文化講座等を開催しました。

教 室 名	延べ参加人数	開 催 日	回 数
手ことば教室	99 人	第 4 火曜日	10 回
パソコン教室	495 人	毎週水曜日	43 回
日曜パソコン教室	9 人	10 月・11 月	2 回
音楽療法	49 人	第 3 火曜日	10 回
ふれ愛教室 (作品作りや軽スポーツ等体験型講座)	42 人	第 4 木曜日	6 回
スポーツ教室	80 人	第 4 金曜日	8 回

(4) 助成券の交付

血液透析患者や重度障がい者（児）が、社会参加する際のタクシー料金や自家用車の燃料費の一部を補助するために、可見市が発行する社会参加助成券の交付窓口として協力しました。

交付状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
重度障がい者（児）社会参加助成券	575 件	618 件	615 件
血液透析通院患者交通助成券	37 件	46 件	40 件

2-2 障がい者基幹相談支援センター

可見市障がい者基幹相談支援センターを市福祉支援課に併設しています。障がいに関する相談及び助言、市内の相談支援事業者間の連絡調整や関係機関との連携など、地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを適切に運営しました。

(1) 相談支援

基幹相談支援センターとして、総合的・専門的な相談業務を実施しました。

相談件数

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
関係機関 (事業所、行政、教育・医療機関、就労機関等)	1,359 件	1,276 件	1,479 件
個 人	787 件	769 件	797 件
合 計	2,146 件	2,045 件	2,276 件

(2) 支援会議

支援困難者に対して、地域の関係機関や障害福祉サービス事業所が連携して適切な支援を行っていくことを目的として、情報を共有し、支援の方向性等を検討するための会議を必要に応じて開催しました。

開催状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
支援会議	25 回	28 回	59 回

(3)部会

①相談支援部会

地域の相談支援従事者の人材育成のため、市内の相談支援事業所を対象に事例検討や情報提供等を行う部会を開催し、相談支援従事者のスキルアップを図りました。

②児童支援部会・就労支援部会

児童支援部会、就労支援部会の進め方について検討し、地域課題に取り組める体制づくりになるよう進めました。

開催状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
①相談支援部会	23 回	21 回	20 回
②児童部会・就労部会	0 回	0 回	0 回

(4)交流サロン

知的障がい、発達障がいの方やその家族を対象に、知的障がい相談員と連携し、悩みの相談、情報交換を行う交流サロン（相談会）を新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、感染対策をして開催しました。

開催状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
交流サロン	11 回	3 回	0 回

2-3 福祉リフトカー貸出受託事業（財源：市受託金 1,364,031 円）

車いすで生活されている方や寝たきりの方などを対象に、車いすのまま乗車できるリフトカー「やすらぎ号」を、通院や日常生活等で必要な場合に無償で貸し出しました。

利用実績

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
福祉リフトカー貸出	324 件	341 件	303 件

3 老人福祉センター福寿苑運営事業（財源：指定管理料収入等19,340,186円）

可児市老人福祉センター福寿苑の運営

市の指定管理者として、新型コロナウイルス感染防止対策に努め、利用者が安心安全にご利用いただけるよう施設の適正な管理運営を行いました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、開館時における利用制限を行いました。が、利用規制の緩和や喫茶店の開店により利用者数は増加傾向にあります。

利用状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
団 体 (延べ人数)	40 団体 (8,257 人)	31 団体 (4,654 人)	32 団体 (4,663 人)
個 人	7,008 人	7,221 人	7,730 人
その他（視察等）	0 人	0 人	0 人
合 計	15,265 人	11,875 人	12,393 人
1 日平均利用者数	63 人	55 人	69 人

教室の開催状況

開催教室	回 数	延べ人数	開催日
生花教室	12 回	111 人	第4月曜日
民踊教室	24 回	255 人	第1・3水曜日
ヨガ教室	23 回	410 人	第1・3火曜日
健康体操教室	24 回	434 人	第1・3火曜日

企画講座の開催状況

開 催 教 室	回数	受講者(延べ)	開 催 日
認知症にならない！脳イキイキ講座	6 回	59 人	5/27,7/22,9/26,11/25,1/27,3/24 全6回
暮らしに生かす漢方「漢方健康よもやま話」	5 回	83 人	5/12,6/9,7/14,9/8,10/13 全5回
シニア世代応援「初めてのスマホ教室」	4 回	73 人	6/23Android コース 25 人 6/24 かんたんスマホコース 22 人 6/28iPhone コース 16 人 6/29iPhone コース 10 人
シニア世代応援「初めてのスマホ教室」第2弾	2 回	17 人	8/25Android コース 11 人 8/31 かんたんスマホコース 6 人
シニア向けスマホ教室(iPhone 入門編)	1 回	15 人	2/28
フレイル予防～栄養講座	1 回	14 人	1/6
筋肉と骨の健康を維持する食事と健康体操	1 回	23 人	1/25
消費者被害防止～悪質商法対策講座～	1 回	20 人	3/8

4 生活サポートセンター

4-1 生活困窮者自立支援事業

（財源：市受託金 生活困窮者自立支援事業・新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金対応窓口対応等業務事業 22,790,218 円）

平成 27 年度より生活困窮者自立支援制度が施行され、市からの受託により事業を実施しています。

利用者の自立に向けたプランニングを行う自立相談支援事業、離職等により経済的に困窮し住宅を喪失した方もしくは喪失する恐れのある方へ家賃を補助する住居確保給付金事業、家計の遣り繰りができなかつたり、多重債務に陥つたりしている世帯を対象に、家計再生を行う家計相談支援事業を行うとともに、就労の定着に困難をきたしている人を対象とした就労準備支援事業を令和 4 年 4 月から新たに受託し、支援を行いました。住居確保給付金事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、支給対象が拡大され、住居及び就労機会に向けた相談、支援を多く行いました。

また、令和 3 年 7 月から受託している新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の受付窓口では、引き続き申請の受付や相談について対応しました。

相談件数等

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
新規相談受付件数	18 件	22 件	25 件
自立支援プラン作成件数	4 件	5 件	3 件
自立相談支援相談延べ件数	895 件	554 件	813 件
住宅確保給付金相談及び 申請延べ件数	328 件	260 件	1,467 件
	住居確保給付金 (特例対応) 申請：10 件	住居確保給付金 (特例対応) 申請：12 件	住居確保給付金 (特例対応) 申請：93 件
家計相談支援相談延べ件数	276 件	46 件	23 件
就労準備支援相談延べ件数 ※令和 4 年 4 月 1 日から新規受託	220 件		
生活困窮者自立支援金相談 及び申請延べ件数	相談：723 件	相談：1,060 件	
	※申請期間：令和 3 年 7 月 26 日から令和 4 年 12 月 31 日 申請 245 件 (うち 43 件は再支給)		

支援調整会議

利用者の自立を的確に支援するよう、月 1 回程度、各専門家を交えて支援調整会議を実施しました。

会議構成員：弁護士(法テラス可児)、ハローワーク就職支援ナビゲーター、市福祉支援課
市社協担当職員（その他、必要に応じ、地域包括支援センター職員など専門職が参加）

会議開催回数：12 回

4-2 心配ごと相談事業（財源：市受託金 311,656 円）

相続や家族の問題など、日常生活上の様々な心配ごとの相談に応じました。

日 時：第 2・4 火曜日午後 1 時～ 4 時

実施日数：24 日

相 談 員：民生児童委員及び司法書士

相談件数

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
相談件数	26 件	20 件	22 件

4-3 生活福祉資金貸付事業（財源：県社協受託金・補助金 4,104,715 円）

離職者等に対し、生活意欲の促進を図り安定した生活が営めるよう、岐阜県社会福祉協議会が実施する貸付事業に関し、市社協は貸付相談、貸付手続き、償還指導等を行いました。

※総合支援資金と緊急小口資金は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年 3 月 25 日から令和 4 年 9 月 30 日まで特例貸付（特例措置）を行いました。

貸付状況等

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
貸付件数 (内 新規件数)	5 件 (5 件)	1 件 (1 件)	0 件 (0 件)
	特例貸付 94 件	特例貸付 724 件	特例貸付 1,960 件
資金の相談件数	2,890 件	3,788 件	7,722 件

4-4 ず～っとあんき支援事業（財源：社会福祉充実事業費）

住み慣れた地域でだれもが安心して暮らすことができるように、市民の権利を守るための事業を実施しました。

預託金によるサービス（財源：社会福祉充実事業費）

事前に預託金を預かることにより、万が一の際の葬儀や家財処分などのサービスを実施します。また、契約者に対しては、定期的な見守りや入退院時等のサービス、書類預かりサービスも希望に応じて実施します。

相談状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ相談対応件数	25 件	4 件	11 件
契約件数	0 件	0 件	0 件

入退院時支援サービス（財源：社会福祉充実事業費）

入退院時に必要なサービスを実施するとともに、日常的な見守りをしました。

相談状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ相談対応件数	35 件	3 件	18 件
年度末契約件数	2 件	2 件	2 件

日常生活自立支援事業（財源：県社協受託金等 1,645,000 円）

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分な人に対し、職員及び支援員により、預金の払い戻し、代金の支払いなどの金銭管理と福祉サービス利用の援助をしました。

支援状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
年度末利用者数	16 人	15 人	13 人
延べ相談対応件数	1,437 件	900 件	1,889 件

法人後見事業（財源：市補助金 120,000 円・社会福祉充実事業費）

判断能力が不十分な人に対し、市社協が本人に代わって法律行為などを行う成年後見人等を裁判所から受任することにより、日常生活の支援を行いました。また、成年後見制度に関する相談にも応じました。

相談対応・受任状況等

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ相談対応件数	302 件	254 件	195 件
新規受任人数	1 人	1 人	1 人
終了人数	1 人	1 人	0 人
年度末時点受任人数	3 人	3 人	3 人

➤ 介護サービス事業拠点

1 居宅介護支援事業（介護保険収入等 15,323,059 円）

ケアマネジメント

要支援又は要介護の認定を受けた人の居宅サービス計画（ケアプラン）を作成しました。他の事業所の居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）と意見交換を行い、資質及び意識向上に努めました。

利用者数

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
要介護 1	480人	439人	487 人
要介護 2	195人	223人	222 人
要介護 3	120人	103人	106 人
要介護 4	108人	108人	89 人
要介護 5	60人	78人	117 人
要支援	50人	61人	84 人
合 計	1,013 人	1,012人	1,105 人

2 訪問介護事業（財源：介護保険収入等 24,930,978 円）

高齢者のホームヘルプサービス

要支援又は要介護の認定を受けた人が、住み慣れた居宅で可能な限り自立した日常生活を営むことができるように、訪問介護サービス・介護予防訪問介護サービスを提供しました。

利用状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ利用者数	616 人	538 人	477 人
派遣時間数	3,949 時間	3,378 時間	3,179 時間

障がい者のホームヘルプサービス（総合支援居宅介護事業等）

（1）指定居宅介護・指定同行援護事業

障害者総合支援法に基づく居宅介護サービス、同行援護サービスを提供しました。

障がい者（児）（身体・知的・精神の3障がい）が、一般能力や適性に応じ自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようサービスを提供しました。

利用状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
延べ利用者数	303 人	309 人	290 人
派遣時間数	1,890 時間	2,163 時間	2,401 時間

(2) 地域生活支援事業（移動支援サービス）

市町村を実施主体とする地域生活支援サービスを提供しました。

障がい者（児）（身体・知的・精神の3障がい）が、社会生活上必要な外出及び余暇活動等の社会参加に関する外出に対し、その移動を個別に支援しました。

利用状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ利用者数	2人	2人	7人
派遣時間数	5時間	5時間	9時間

職員研修の実施

質の高いサービスを提供するために、毎月職員研修を行い能力向上に努めました。また、新型コロナウイルス感染症対策支援マニュアルの確認を行い、スタンダードプリコーション（標準予防策）に基づいて各業務を遂行しました。

研修の実施状況

月	研 修 内 容	月	研 修 内 容
4	新年度挨拶(管理者・関係係長) 職業倫理、法令遵守、守秘義務、接遇	10	事故発生・再発防止 ヒヤリハット報告書から共有と対策
5	グループ検討 ～業務の当たり前を再確認しよう～	11	介護技術 コミュニケーション技術とメンタルヘルス
6	虐待の理解を深める	12	同行援護 基本介助の再確認
7	食中毒・感染症について (感染対策のため資料配布)	1	栄養と調理(グループワーク)
8	認知症について (感染対策のため「認知症予備軍サポーター養成講座」のまとめ資料配布)	2	ICT 導入によるタブレット勉強会
9	救急法 (感染対策のため「政府広報オンライン」より抜粋資料配布)	3	1年の反省・次年度に向けて タブレット勉強会

記録システム及びタブレットの購入

介護現場における ICT 化を検討した結果、業務の効率化やスムーズな情報のやり取りなどが可能となるメリットを踏まえ、国・県の補助金を活用し、ヘルパー記録システムとタブレット 17 台を購入し、5年度からの本格運用の準備を行いました。

3 計画相談支援事業（財源：自立支援費等収入 19,194,058 円）

計画相談支援

特定相談支援事業所、障がい児相談支援事業所としての指定を受け、障がいのある大人や障がい児に対し、障がい福祉サービス利用計画や児童福祉サービス利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行うなどの支援を行いました。

支援状況

区 分	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
特定相談サービス利用計画	168 件	174 件	208 件
特定相談モニタリング	619 件	570 件	654 件
障がい児相談サービス利用計画	69 件	59 件	79 件
障がい児相談モニタリング	61 件	79 件	73 件
合 計	917 件	882 件	1,014 件

➤障がいサービス事業拠点

1 ふれあいの里可児就労継続B

(財源：障害福祉サービス費等39,475,946円、就労支援事業収入8,656,497円)

就労や生産活動の機会を提供し、就労に必要な知識・能力の向上・維持のための訓練を行いました。

利用状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用者数	29人	24人	26人
延べ利用者数	5,511人	5,096人	5,395人

※定員：30人

作業活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、企業等からの受託作業が減少しましたが、感染防止対策を行いつつ、利用者の適性及び能力を考慮した班分けにより、就労の場を提供しました。就労支援事業収入は、材料費を除く全額を利用者に工賃として支給しました。新型コロナウイルス感染症の影響で自宅待機した利用者や閉所となった日もありましたが、利用者数が増えたことにより延べ利用者数も増加しました。

(月額平均約 20,553円 *年度末一時金含む)

施設内作業

- ・クッキー、シフォンケーキなどの焼き菓子の製造を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったイベントが多かったため、関係機関へチラシを配布しての受注販売や、バレンタインなどの企画商品の販売を行いました。
- ・自動車部品の組立や菓子箱の箱折などの受託作業を行いました。どの作業も新型コロナウイルスや半導体不足の影響等で受託量が少なくなったため、新たな作業を開拓し、工賃の安定を図りました。

施設外作業（班分けではなく適性に応じて、就労の場を提供しました。）

- ・エコドーム運営（第3・4・5火曜日）
- ・洗車（市社協、可児市子育て健康プラザの公用車）
- ・チラシのポスティング作業
- ・こころんカフェ（可児市福祉センター 毎週水曜日）の営業は新型コロナウイルス感染症の影響で休止中。

販売活動

新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったイベントが多く、販売の機会が減少しましたが、開催された地区センターまつり等には積極的に参加しました。

- ・地区センターまつりや他施設のイベント、地域の行事などへの出店（8か所）
- ・可児市役所への出張販売（第2火曜日）
- ・ほっとサロンゆい（広見地区センター内）へのクッキー納品
- ・子ども発達支援センターくれよんへの出張販売（月1回）・・・中止

- ・可茂特別支援学校への出張販売・・・中止
- ・健康フェアへの出店・・・中止
- ・注文票での予約販売（くれよんなどの公共施設や保護者などに注文票を配布）
- ・市内の企業（デンソーワイズテック）での販売（月１回）
- ・市内外の喫茶店などでの委託販売

行事

- ・余暇活動（８月１５日）・・・中止
- ・ふれあいまつり（９月１８日）・・・中止
- ・クリスマス会（１２月２３日）・・・中止
- ・ふれあい運動会（１１月２０日）・・・中止

利用者の健康管理

- ・体重、血圧測定の実施（毎月初旬）
- ・健康診断の実施（７月）
- ・嘱託医による内科健診の実施（２月）
- ・歯科健診の実施（３月）

２ ふれあいの里可児生活介護

障がいに応じた日常生活や、社会生活を送ることができるよう食事や入浴、排泄等の介助を行うとともに、軽作業等の作業活動や創作的活動の機会を提供しました。

2-1 支援班（財源：障害福祉サービス費等 24,478,536 円）

常時介護を要する方に日常生活上の支援を行いました。また、希望者には特殊浴槽を用いた入浴介助（１回あたり 500 円）や自宅までの送迎（1Km あたり 10 円）を行いました

利用状況

区 分	令和４年度	令和３年度	令和２年度
利用登録者数	15 人	15 人	16 人
延べ利用者数	1,532 人	1,312 人	1,662 人

※1 日の利用定員は 10 人

特殊浴槽による入浴サービスの実施 延べ 439 人（希望者 8 名 週 1～2 回利用）

活動内容

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、活動を休止した時期がありました。

- ・音楽療法（毎週月曜日） 音楽療法士 1 名、利用者全員による集団セッション
- ・理学療法（月 2 回、火曜日） 理学療法士 1 名、利用者 8 人/回、15～20 分/1 人
- ・個別支援 散歩、ストレッチ、楽器演奏、音楽鑑賞等
- ・レクリエーション 外出活動、おやつ作り、工作、ゲーム等

行事

- ・ふれあいまつり（9月18日）・・・中止
- ・クリスマス会（12月23日）・・・中止

利用者の健康管理

- ・体重、血圧測定の実施（毎月初旬）
- ・健康診断の実施（7月）
- ・嘱託医による内科健診の実施（2月）
- ・歯科健診の実施（3月）

2-2 生活班（財源：障害福祉サービス費等 22,425,617 円）

レクリエーションを取り入れながら療育的な活動や作業活動を行いました。希望者への自宅送迎を引き続き行いました（1Kmあたり10円）。

利用状況

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用者数	10人	9人	8人
延べ利用者数	1,882人	1,507人	1,301人

※定員：10名

作業活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、販売活動の中止、企業等からの受託作業が減少するなどしましたが、感染防止対策を行いつつ、利用者の能力及び適性に応じた作業の場を提供しました。出勤日数、作業活動参加時間にあわせて工賃を支給しました。

（月額平均約 3,920 円 ※年度末一時金含む）

- ・自動車部品のバリ取り、牛乳パックやアルミ缶の回収・分別・納品
- ・食用油の吸収材「すいとりくん」の製作
- ・サロンや委託販売先へのクッキー納品

療育的活動

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、活動を休止した時期がありました。

- ・音楽療法（毎週金曜日） 音楽療法士1名、利用者全員による集団セッション
- ・レクリエーション 外出活動、おやつ作り、工作、ゲーム等

販売活動

食用油の吸収材「すいとりくん」などの販売は、新型コロナウイルス感染症の影響で、各種イベント・行事等が中止となったため、注文販売、委託販売を行いました。

行事

- ・余暇活動（8月15日）・・・中止
- ・ふれあいまつり（9月18日）・・・中止
- ・クリスマス会（12月23日）・・・中止
- ・ふれあい運動会（11月20日）・・・中止

利用者の健康管理

- ・ 体重、血圧測定の実施（毎月初旬）
- ・ 健康診断の実施（7 月）
- ・ 嘱託医による内科健診の実施（2 月）
- ・ 歯科健診の実施（3 月）

➤ 関連事業

1 岐阜県共同募金会可児市支会の運営

10月1日から12月31日までの間、市民の皆さんによる地域福祉活動を支援するための「赤い羽根共同募金」と、新たな年を迎える時期に支援を必要する人たちが、地域で安心して暮らしていただけるように応援する「歳末たすけあい募金」を、1世帯あたり600円を目安として協力をお願いしました。

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度
募金実績額	13,301,333 円	15,936,680 円	17,040,071 円

※実績額は岐阜県共同募金会への報告額です。(令和4年2月1日～令和5年1月31日)

2 日本赤十字社岐阜県支部可児市地区の運営

岐阜県支部可児市地区として、赤十字社の理念のもと、会費・義援金の募集、被災者支援、献血推進活動、救急法講習等を行いました。

また、可児市赤十字奉仕団事務局を運営しました。

(1) 会員（協力会員）・会費

区 分	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	会員数	会費実績額	会員数	会費実績額	会員数	会費実績額
個 人	20,132 世帯	10,068,465 円	20,304 世帯	10,150,032 円	20,911 世帯	10,455,470 円
法 人	106 法人	1,075,000 円	119 法人	1,206,000 円	123 法人	1,282,000 円
寄 付		115,000 円		70,000 円		110,000 円
合 計		11,258,465 円		11,426,032 円		11,847,470 円

(2) 義援金・救援金

被災者支援のために、日本赤十字社を通じ義援金・救援金を募りました。

義援金・救援金額：1,258,013 円（令和4年4月1日～令和5年3月31日受付分）